

主産地における芝生の技術と経営 2

| | |
|-------|------------------|
| 誌名 | 農業技術 |
| ISSN | 03888479 |
| 著者 | 遠藤, 正好 山崎, 和夫 |
| 巻/号 | 26巻2号 |
| 掲載ページ | p. 59-60 |
| 発行年月 | 1971年2月 |

主産地における芝生の技術と経営……②

遠藤正好* 山崎和夫**

4. 芝生作の経営実態

芝生が導入されて日が浅いのかかわらず、芝生の主産地である東伯町、大柴町およびその周辺の地域の伸びが大きく、経営の大きな柱となっているが、それは、①土壤条件が芝生作に適していたこと、②需要動向が良好でかなりの価格で販売されたこと、③投下資本が少なくすみ、労力も余りかからず、栽培しやすかったこと。④普及所、町役場、農協の指導体制が整備されていたこと、などによるものと考えられる。

1) 芝生の導入されている経営類型 経営発展のタイプには(A)農地面積拡大型、(B)資本装備強化型、(C)両者の中間型の3つのタイプがあるが、芝生はAとCのタイプに多く導入され、A型は米・芝生型、C型では米・芝生+梨またはやさい型の経営類型が展開されている。

ともかく、畑の広い農家なり、集落に定着し、その作付規模は労力事情によってきめられている。つまり、芝生は労力配分調整剤の性格を帯びているといえる。また労力の少ない兼業農家の畑にもかなり植えられている。

2) 収益性 芝の収益性は農家により、年によりかなりの差があるとみられるが、現地におけるやや平均的な水準にあるとみられる農家の調査結果は第3表のようになる。年間10a当り約12aの収穫をあげるとすれば、約

第3表 芝生の経営収支 (10a当り)

| 項 目 | 金額(円) | 備 考 |
|---------|---------|---|
| 粗 収 益 | 130,000 | 収穫面積500坪、芝坪260坪。総体的には10a当り11.7aの収穫になる。 |
| 経営費 | | |
| 種 苗 費 | 2,600 | 種芝40坪10,400÷4年(芝の収穫利用年数) |
| 肥 料 費 | 12,250 | 元肥、23,000円÷4年=5,750円、追肥は6,500円を年々施用 |
| 諸材料費 | 5,775 | 除草剤、3,500+3,500/4、繩が1,400円。 |
| 農 具 費 | 1,000 | 償却と小農具費 |
| 建 物 費 | 500 | 償却と修繕 |
| 賃料料金 | 14,575 | モア-使用量3回1,500円+1,500/4=1,875円、切取賃8,500円、搬出運賃4,200円坪当り10.50円 |
| 組 合 費 | 5,250 | |
| 小 計 | 41,950 | |
| 差 引 所 得 | 88,050 | |

88,050円の所得が期待でき、1日当り所得はさらに実に大きく7,461円に達している。将来指導の目標を2年3回切取り、つまり10a当り15aの収穫を狙っているので、この水準に到達すれば、10a当り10万円の所得は十分得られるものと考えられる。

3) 所要労力 芝生作の所要労働は各農家の栽培管理の違い、とくに除草作業の違いによって大差があるが、以前に比べて除草労働が著しく軽減されて10a当り94.5時間(11.8日)となり省力化されており、作業体系の改善により60時間前後になるものとみられる。

4) 芝生の需要動向 芝生の需要は率直にいつつかめないが、ゴルフ人口の増加、宅地造成、公園、庭園の増設等により需要は下火になることは考えられず、多少の凹凸はあっても全体として上昇線をたどって増大することと考えられる。

需要について多少の疑念を抱く人もあるが、その前に他産地のものより品質の良い芝生を生産することが大切であろう。芝生は何か昔風の商売、前近代的な感じがす

第4表 芝生作の所要労働時間

| 作 業 名 | 農 機 具 | 作業時期 月 | 所要労働時間 | |
|----------------------|---------|---------------|----------|-------|
| 新植または 改植圃場 | 畑 耕 耘 | 耕 耘 機 | 3 | 2.0 |
| | 整 地 | 人 力 鍬 | 4 | 10.0 |
| | 値 付 | 人 力 | 4 | 64.0 |
| | 鎮 圧 | ロ ー ラ ー | 6 | 2.0 |
| | 施 肥 | 人 力 | 5,7,9 | 3.0 |
| | 除草剤散布 | 人力または動噴 | 5,7,9,11 | 10.0 |
| | 手 取 除 草 | 人 力 | 6,8,10 | 3.0 |
| | 頭 刈 | モ ア ー | 6,7,8,9 | 4.0 |
| | 頭刈後始末 | 人 力 | 6,7,8,9 | 8.0 |
| | 計 | | | 106.0 |
| 取 穫 圃 場 (2~5年) | 施 肥 | 人 力 | 5,7,9 | 3.0 |
| | 除草剤散布 | 人力または動噴 | 5,7,9,11 | 10.0 |
| | 手 取 除 草 | 人 力 | 6,8,10 | 3.0 |
| | 頭 刈 | モ ア ー | 6,7,8,9 | 4.0 |
| | 頭刈後始末 | 人 力 | 6,7,8,9 | 8.0 |
| | 切 刈 | ソードカッター | 10 | 32.0 |
| | 搬 出 | 農用トラックまたはリヤカー | 10 | 8.0 |
| 計 | | | 68.0 | |
| 10 a 当 り 所 要 勞 働 時 間 | | | 94.5 | |

注) 10a当り所要労働時間は、新植・改植圃場の100時間を収穫可能年数4年で割り、収穫圃場の94.5時間に加えた。

る商売のように受取られがちであるが、事実これだけの農産物で市場に上らないものはないだろう。流通機構の改善が真剣に考えられなければならない。

5. 芝生作のこれからの課題と対策

1) 地力増強、耕土培養対策の確立 これは前述したように芝生作りの基本である。耕土の深い軟かな土の中に適当な養分と空気と水分がよりよく調和された場合、いずれの作物を問わず、きわめて順調に生育することは間違いないことである。このような条件下では収穫利用年数は長くなり、畑のハゲも少なく、黄化現象も解消し、良質芝の早期収穫が可能で収益性を高めることは火を見るよりも明らかである。

2) 芝生の品質改善 圃場を巡回してみると、異品種、異系統の混入しているものがあるが、産地間競争が激しくなれば、買手市場、品質優先ということになる。①採種はの設置による純系種の更新が必要である。②あわせて同一品種の団地化を推進しなければならない。

3) 芝生作の省力化、機械化 芝生作りの手取除草は除草剤の活用によって大幅に緩和されているが、さらに

研究を重ねて手取除草から全面的に解放されるようにしたい。

深耕と耕土培養のために大型トラクターやトレンチャー、鎮圧のためにローラーの導入を今後にはかる必要がある。

4) 芝生産組合の整備と販路の拡張 芝生産組合は乱立状態にあり、生産、流通、指導、行政施策の各方面に支障をきたしている。組合が十指以上に及んでいるのはそれなりに相当の理由があると思われるが、町の基幹的作目であり、農家の大きな所得源でもあり、名実ともに日本一の芝生とするためには、芝生産組織の統一強化をはかり、あわせて販売体制の強化をはからなければならないであろう。

5) 水田転換作物としての芝生 米作転換を前向きにとらえて地域営農の振興をはかろうとする場合、水田の基盤整備、機械利用の可能性、団地化、耕土が深く排水のよい火山灰土水田などの条件が揃えばかなり導入される作物で、稲作に比べてかなりの収益性が期待される。そこで本県の主産地では水田にかなり導入される見込みで準備が進められている。

(*鳥取県東伯農改普及所次長 **同県農業指導課専門技術員)

□ '71年新春通信 ① □

* 信越国境の雪の中に水を流しながら、パイプハウスを作りました。ハウスの屋根には雪も積みませんし、白一色の中に文字通りみずみずしい野菜のみどりが美しく、そこは残留農家の希望が宿るところです。(新潟県農業試験場・国武正彦)

* 昨年は当市のカドミウム公害で惨々でした。ウソがつけない技術屋の悲しさ、終始マスコミに振り回されました。今年の米の問題が心配です。(富山県黒部市長・寺田初夫)

* 鴻巣と北本に勤務して20年になりました。友人から「まだいるのか」といわれますが、20年ふた昔もの長年月がたったような気がしません。昨年暮れから「雑草研究」の編集を担当していそがしくなりそうです。(農事試験場畑作部・中山兼徳)

* 年の始めのためとして 終りなきよのめでたさを 松竹たてて門ごとに 祝う今日こそたのしけれ

(熊本県農業試験場畑作部・竹崎力)

* 中年後期に入って1年の短さがいっそう強く感じられます。短い年だけにことしもがんばって、ふるさとの人と土に表現をそえていきたいと存じます。

質問は減反を説くわれ1人に吊し上げるが如く集る
この溪に暮らしを閉じし村人ら山芋掘りし穴を残せり

(広島県農業技術課・神田三亀男)

* いも作りの仕事をさせてもらっています。「幸福とは手のしわを合せて愛の心で感謝する」ことです。

(網走郡女満別町・北海道種苗センター・関山英吉)

* 私の言ったり書いたりしたことが、不幸にも中して、今年の佐賀稲作は例年にない不作でした。どうなることなのでしょう。(佐賀県農業試験場・宮島昭二郎)

* くだばれGNP・自然と人間・人間回復・生きがいなど去年起こった一連の思潮がさらに強まり、「農業および農村生活の再認識」へと展開しています。すなわち農業の社会的役割の第1,食糧の提供が強調されたあまり、見おとされていた第2,緑の保持と、第3,人間性の形成の再確認です。私どものなすべきことがむしろ多く重くなると思いますので、がんばります。

ときどきは、都塵をはらい落とすために、太陽とみどりと空間の信州へおいで下さい。

(長野県農業試験場・上原靖)

* 米の生産調整ますますきびしい中で、稲作技術者のなやみは深刻です。また言い分も多々あることと思います。そこいらの率直な意見を誰かに書いてもらいたいのですが……。

(静岡県農業試験場・太田孝)

* 南の島の正月は、まぶしいほどの明るさです。

(東京都小笠原支庁産業課・伊達昇)

* 現在日本人の一番の関心事は公害だろうと思いますが、その基因のひとつは公徳心の問題ではないでしょうか。住みよい国にするために、今年こそ公徳心の向上に努めたいものです。

(千葉県松戸市馬橋1896・森田三良)

* 今年の正月はインドで迎えています。1月中旬には帰国の予定です。

(神奈川県平塚一農業技術研究所遺伝科・岡部四郎)